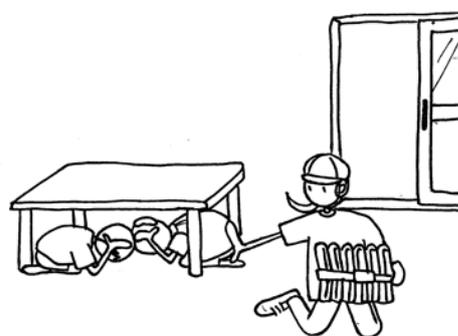


だ み よ く り に

No.765 令和7年9月1日発行



「いっしょならできること」

「おやすみになるかたはおやすみなさい」

この言葉を聴いて感じることはそれぞれだと思います。わたしは、23時59分、ふとつけていたテレビから聴こえてきたこの言葉に心が温まりました。全ての人にそれぞれの事情があって、全ての人にあてはまる言葉を見つけようとしてもなかなか見つからない中で、誰のことも取り残さないようにと気遣いにあふれた言葉だと感じたのです。それぞれの立場になって考え出した言葉、まさに言葉を紡いだのだと思いました。深夜の番組終わりに「おやすみなさい」という挨拶をしても違和感がないところにもこだわる一人のアナウンサーの優しさ、気遣いに感銘を受けました。

誰一人も取り残さないこと、難しいけれど、大切です。やらなくても事は進むであろうということにも意識を向ける、人として素敵だと思います。そのような人がいるからこそ、誰かが嫌な思いをしなくて済んだり報われたり、社会が回っているのだらうとも思います。誰にも気づかれないかもしれないけれど見えない気遣いで誰かを残さないようにしようとする人に誰かがちゃんと光を当ててほしい、そういう温かい社会を子どもたちに引き継ぎたい、そんなことを想った夏夜でした。

さて、教育保育業界では、毎年7月・8月に多くの研修が開かれます。全国の保育教諭が学ぼうとする有意義な慣習だと感じています。わたしもいくつかの研修に参加しましたが、教育保育は分野が広くそして深く、勉強をしてもしても追いつきません。なので、学んだことはアウトプットすることで、自分だけでなく少しでも子どもたちに還元できればという思いでいます。今回

は、山本五十六の言葉にふれます。有名なこの言葉をご存知かと思いますが。「やってみせ、言って、聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば人は動かじ」。人材育成やマネジメントといった話によく出てくる言葉ですが、これは子育てにも通じるものがある、と注目される言葉でもあります。そして、実はこの言葉に先があるのをご存知ですか。その先がとても大切なのです。「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」

わたしたちは子ども（人）を動かすことが目標ではありません。その先の、人が育ち、人が実ることを望んでいます。その子らしく、その人らしく育てほしい、実ってほしい。深く、時に悩んでしまう子育てだからこそ、本や先人の言葉が道標になります。

園生活の1学期は「園は安心できる場所」「安心できる心地良い先生」だと知る時間。2学期はそれを基盤に「安心してやってみよう」「先生と一緒にやれるかもしれない」「やったら楽しかった」「またやってみよう」と経験を積み重ねる時間。そのために日々の教育保育に加えて、2学期は行事を取り入れます。良い手本を子どもたちにたくさん見せて、子どもたちの力や考えを受容・共感して、信じています。そして自分自身も子どもたちと一緒に育ち合い、磨こうと思います。行事の際は集合時間など皆さまにご協力いただくこともございますので、引き続きご理解ご協力をどうぞよろしく願いいたします。

まだまだ暑さが続きそうです。子育て、家事、仕事、介護、勉強、療養……これらに加えて、暑さからの熱中症対策。これらをこなす皆さん、本当に毎日お疲れ様です。ご自身のお体に十分気をつけてお過ごしください。